

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市国見児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人ワーカーズコープ
3 指定期間	平成28年4月1日から令和3年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》13,394人（前年度比 72.0 %） 令和元年度 18,596人 平成30年度 17,491人 平成29年度 16,923人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 （ ）は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 25,476千円 （23,784千円） ・ その他市が負担した費用 0千円 （0千円）
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 （0千円） ・ その他収入 0千円 （0千円）
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、地域懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行による利用情報の提供、外国人が多い地域性を踏まえた翻訳機器の用意等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。さらに子どもの意見を大切に、子ども会議をもうけて子ども自身が生活や遊びのルールを決めるよう支援するなど自主性や社会性を育てている。昨年度より、コロナ禍のために縮小している乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人ワーカーズコープ）による自己評価》
<p>いかなる状況となっても、常に「子どもたちへの最善の利益」を一番に考えた運営を行った一年だった。</p> <p>○子育て家庭支援事業 通例の幼児クラブ（2～3歳児対象）に加えて、再開した乳幼児利用時間に一人でも多くの利用者と出会うために「ちびっこプレイランド a・so・bo」を新設した。月に3回の開催で月齢関係なく遊べるように、館内型公園として多くの親子に利用していただけた。また「おうちじかん」によるストレス解消のために「お互い様サロン」として気軽に参加できるヨガ教室やアクセサリ製作などを開催した。</p> <p>○放課後児童健全育成事業 様々なことを強いられ窮屈な思いをしながらも、現状の中でたくさんの豊かな遊びが生み出された。一時期遊びを制限したため子どもたちが落ち着かず、トラブルにつながる場面もあったが、遊びを取り戻すことによって館内全体が元気を取り戻し、遊びの重要性について再確認することができた。異年齢交流も盛んにおこなわれ、2月に開催した「ウィンターパーティー」では子ども実行委員会が主動となり、みんなが楽しむために自分たちができることについて追求し、やり遂げることによって、大きな成長を遂げることが出来た。</p> <p>○健全育成事業 来館できない子どもたちに思いを馳せた取り組みとして、「あおぞら文庫」の設置、館内整備、図書アンケートによる蔵書の見直しを行った。また月に一度「ふわりんくらふと」を新設し、身近にあるもので作成できるキットの開発を楽しんだ。</p> <p>○地域交流推進事業 子育て支援クラブとの「畑づくり」は子どもたちと土に触り、収穫するまでの貴重な体験をすることができた。またコロナ禍による困窮やフードロスの観点から「フードBOX」の設置を行い、フードバンク仙台と連携することで、地域や子どもたちにも社会的課題を発信することができ、大きな学びとなることが出来た。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>健全育成事業においては、自由来館が開始した10月より「ふわりんクラフト」を毎月開催し、アロマキャンドルやフェルトストラップ制作など様々な造形遊びを通して、子ども達の好奇心を刺激し豊かな感性を育てている。また、青葉区6館で開催したベタンク交流戦では、多くの行事が中止となる中、行事を通して地域との交流を広げる機会をもつなど子ども達が地域と関わりを持ちながら育つ環境作りに努めている。</p> <p>地域交流推進事業においては、児童館の蔵書を整理して300冊ほど門外に置いて誰でも好きな本を持ち持ち帰れる「青空文庫」をはじめ、小学生だけでなく地域の人や児童クラブの送迎の祖父母などに幅広く活用され喜ばれている。また、コロナ禍による困窮者への支援やフードロスの観点からフードバンク仙台と連携して「フードBOX」を児童館に設置しSDGsの取り組みや地域、地球環境に目を向ける機会を設けるなど、児童館の認知度を高めるとともに地域との連携を深めることができています。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、登録制の幼児クラブの他、年齢枠を外し自由参加にした「ちびっこプレイランド」を新しく開催し、乳幼児親子の自由な遊び場として提供している。また、お話し会での親子の触れ合い遊びや、リトミックや英語であそぼうなどの企画行事も開催している。母親対象のサロン「ほっこりんぐ」では、親子ヨガや子育てセミナーをおこなうなど、保護者の様々なニーズに応じたプログラムを多数提供しており多くの子育て家庭親子を支援するための環境作りに努めている。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項